

第6回小美玉市自治基本条例策定委員会会議録

日時 平成19年3月19日（月）午後1時30分～午後4時30分

場所 玉里保健福祉センター 集団検診室

出席者 片田副委員長、笹目委員、山西委員、高野委員、貝塚委員、藤枝委員、緑川委員、
菊地委員、滑川委員、沼田委員、長島委員、百地委員、中野委員、大越委員

欠席者 飯島委員長、久保田委員、春田委員、高木委員、石田委員

1. 前回の確認について

【第5回会議内容及び会議録等について確認】

- ・事務局より、前回のワークショップ内容及び第5回策定委員会会議録の確認結果表・会議録につき、変更・訂正箇所等なく了承された。

2. グループ討議

A グループ： テーマ1 「危機管理」
 テーマ2 「企業との協働」

B グループ： テーマ1 「国・県・他市町村との連携」
 テーマ2 「男女共同参画」

A グループまとめ

テーマ1 「危機管理」

危機管理については、避難場所の確認という意見が一番多く出た。旧小川・玉里には避難場所の看板が立っているが、旧美野里は看板が立っていない箇所があり、行政側は避難場所等の周知徹底をし、市民は避難場所の確認をしておくべき。

市は正確な情報を迅速に伝えるためのシステムの構築をしてほしいという意見や、災害弱者と呼ばれる幼児・障害者・高齢者の名簿などを作成しておくという意見があった。

災害時にはボランティアが必要になり、災害時にボランティアセンターをいかに早く立ち上げるかが、被害を最小に食い止める秘訣だと感じたので、市として災害ボランティアを養成することは必要だと思う。また備蓄に関して、スムーズな物資調達を図るため、建設業界や流通業界の企業と協定を結ぶのが良いだろうという意見もあった。

少数意見の中には茨城空港の開港に備えテロを想定してシミュレーションを行ったほうがよいの

ではないか、また常設消防ができていない関係から消防団を整理し災害ボランティアへ人員を移すという意見がでた。

市民がすべき準備として年に数回防災訓練を行い、連携を密にする。阪神淡路大震災では建物の下敷きになった人の95%が近所の人に助けられており、そういう教訓から地域のつながりを大切に、一家に1つは防災グッズを常備する。市としても備蓄物の管理、数の把握をしておく必要がある。また災害が起きた際に、集まる支援物資を使いきれずに処分しなくてはならない第2の災害を起こさないようにしなければならない。

被災した場合、市は情報を的確に市民へ伝達し、逆に支援物資を送る際には相手がどういったものを必要としているかを把握しなければいけない。

B グループまとめ

テーマ1 「国・県・他市町村との連携」

国・県・市町村との連携であるが、国・県・市町村との連携、県・市町村との連携、近隣市町村との連携、その他と大きく4つにわけて討議を行った。まず、国・県・市町村との連携については圧倒的に百里基地・茨城空港に関する意見が多く、騒音の軽減問題として鉾田市・行方市と連携して防衛省に騒音被害が少なくなるように交渉すべきという意見や、災害時に備えた百里基地への備蓄や事前に要望等を行いヘリを飛ばせるようにするという意見がでた。

鹿島鉄道は廃線が決まり、代替バスが運行することになっているが、小川から空港まで線路を延ばして存続を図るべきではないかという意見もあった。

河川の流域はいろんな市町村と関連してくるが、河川流域地区安全対策協議会などを設置し洪水等に備え遊水地を上流に設置して被害が最小限になるよう近隣市町村と連携するべきという意見も出た。

茨城空港については新聞にも報じられているとおり、開港後の空港の利用状況について厳しい意見が出ているが、県も茨城空港の設置目的を他県へもっとPRして開港に向けた対策を講じるべきという意見もあった。

県・市町村の連携については空港の開港に併せたアクセス道路の整備を進め、市町村の境界線上の道路がうまく接続できるよう近隣市町村と連携をとるのがよいという意見や、空港の開港に伴い特産品を作る場合に近隣市町村に働きかけ、「いばらき」の生産の活性化を図るべきとの意見があった。また小美玉市統一のブランド品がないので、市としての特産物がほしいという意見がでた。

近隣市町村との連携については、公共施設の利用について市の単独利用ではなく広域に使用するようにしてはどうか。羽鳥地区老人会では茨城町の老人会と提携し定期的に交流会を行っているそうなので、市内においても旧町村での交流会も有効なのではないかという意見があった。

その他の連携では、合併後の行政サービスが一つになっていないという意見。また共通する課題を解決する為に他の自治体と協力するという意見が出た。

「危機管理」に対する意見

神戸淡路大震災では6千人を超える死者がでたが、そのほとんどが家屋の下敷きになったということなので地震に備え家屋診断を行うとよい。

食料等を備蓄する際にきれいな水を蓄えるのが重要であり、一人当たり3リットル程備蓄するのが望ましい。防災グッズの備えは非常に重要である。また避難所だが、先ほど述べたように家屋の下敷きになってしまうような災害だと避難以前の問題が生じてしまう。

A グループまとめ

テーマ2 「企業との協働」

まず企業の位置づけとして、小美玉市在住でなくとも市内の事業所で働いている方は企業市民として市民の一部であると位置づけた。

市と企業の連携・協働については企業にも市民としての役割、責任を認識してもらい協力をお願いしたほうが良い。また、市民として各イベント等へ積極的に参加してもらおう等の意見がでた。

企業との協働する中で行政主導と民間主導の目的を明確にする、例えば第3セクターや特定企業、一般企業を分けておかないと問題があるのでは、という意見もあった。

地域のまちづくりに寄与する地域社会団体や公共性の高い利益を目的としない民間団体等に積極的に協働させるよう呼びかけたほうが良い。

工業団地の協議会などと連携を強化し、環境対策を進めていくのが効果的なのではないか。各企業の人材をうまく交流できるようシンクタンクや人材バンクをつくりお互いに協力し合えればという意見もでた。

B グループまとめ

テーマ2 「男女共同参画」

男女共同参画では、「仕事」「子育て」「地域」「小美玉市における男女共同参画を進めるために」と大きく4つに分けて討議を行った。

まず、仕事の面について出た意見は、採用人事の基本は適正の有無を優先して行うことが大切、事業所における男性社員の子供の病気等で勤務を休む際に周囲の理解、協力が必要である。

仕事によってはお給料が一律になっているが、それに甘えてはならない。

意識改革として男性は、「女性は補助的な仕事をする」という考え方を捨てる。特に管理職は率先して意識改革すべきである。社会では女性を理解していない風潮があるのではないか。という意見があった。

子育てについては、学童保育で6年生まで預かってもらえれば親は安心して仕事をする事が出来るという意見があり、仕事をしていても安心して子育てが出来るような環境整備が必要である。

地域としては、生活環境面を考える時女性の意見は重要であるが、発言に対して女性は消極的であ

る。能力を活かし身近な活動に参加する。幼児期から家庭や地域で男女共同参画の意識を教育する。という意見がでた。また、会議等での女性の参加はまだ少なく、女性に意見を求めてもなかなか意見を言わないことがあり、先頭に立つのではなくサブ的な考えかたで参加している女性が多いのでは。男性の立場では分からない部分もあるので、女性はもっと意見をだしてほしいという意見があった。

小美玉市における男女共同参画を進めるためには、社会的には格差を是とする企業、社会の意識は強く男女共同参画の建前については認識されているが、実質サブ的な考えになっている。男女共同参画の大切さは皆さん一致していると思うが、行事における男女のちがいについては統一されてはいない。などの意見があり、古い考えを見直す機会を多く設けることが大事なことだと思う。

男女の格差を改善する為に市役所において役職に差を設けずに女性に一層の努力をしてもらう。今までの慣習に囚われず積極的に市政にも参加してほしいという意見があった。

4. 次回以降の策定委員会検討内容について

事務局より次回の策定委員会から小美玉市自治基本条例の第一次素案の作成に入るため、事務局側で条文のたたき台を作成することについて各委員の了承を得た。条文のたたき台については次回開催通知に同封することとし、次回からはこのたたき台を基に協議・検討することとした。

5. 次回策定委員会の開催等について

次回開催日時は第一予定日を4月20日（金）、予備日を23日（月）、午後1時半開始予定、会場は美野里地区とし、詳細は開催通知に明記することとした。

6. その他

・策定委員を依頼した際の役職が任期満了に伴い交代になる方がいるが、引き続き委員として参加していただくこととなった。

・事務局より、3月24日（土）午後1：30～ 玉里総合文化センター「コスモス」にて市民フォーラム開催のお知らせ